

FUSO

| No.73 | 2021 07/08 Jul.Aug magazine

新型、快走。

さらに進化したキャンターの
開発の秘密に迫る！





FUSO
magazine

| NO.73 | 2021 07/08 Jul.Aug

表紙Photo:CANTER

©FUSO magazine 本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断複写、転載を禁じます。

キャンターは馬術用語で「駄歩」(かけあし)を意味します。

世界を動かし続けるすべての人々のために より良い未来の実現に向けて モビリティ・ソリューションを提供していきます

いつも三菱ふそうトラック・バスをご愛顧頂き、誠にありがとうございます。

現在、商用車業界は大きな変革の時代に直面しています。

これからの自動車業界は

「CASE/ケース(Connected, Autonomous, Shared, Electric)」が現実のものとなり、

IT情報を活用するコネクテッド、自動運転、シェアリング＆サービス、そして電動化を推進するために、

従来の枠組みを超えた様々なプレイヤーといかに技術協力や提携関係を築くかが重要になっていきます。

私たち三菱ふそうトラック・バスは、ダイムラーグループの一員である利点を生かし、

業界をリードする多くのパートナーと協力関係があります。

三菱ふそうはFor All Who Keep The World Moving

——「世界を動かし続けるすべての人々のために」という想いを掲げて、

日本をはじめ世界で物流や旅客交通に関わるすべての人々に向け、

トラック・バスの開発、製造、販売、整備、

そしてコネクティビティも含めた幅広いモビリティサービスを展開しています。

すでに、カーボンニュートラルへの取組では2017年に世界に先駆け、

量産電気小型トラック、eCanterを市場に送り出しています。

真に持続可能な未来に向けて、様々な課題の解決や提案を行い、

お客様を始め、人と地球により良い生活と環境を実現するために、

三菱ふそうはモビリティ・ソリューションを提供していきます。

これからも私たちは終わりなき進化と挑戦を続け、皆様と共に未来に向かって歩んでまいります。

今後とも変わらぬご愛顧賜ります様宜しくお願い申し上げます。

三菱ふそうトラック・バス株式会社
取締役副社長
国内販売・カスタマーサービス本部長

林 春樹



新型、快走。

昨年、10年振りにキャブデザインを一新した新型キャンター。

より安全に、より快適に。日本を代表する小型トラックが、

1963年の初代から磨き続けてきたその走りをさらに進化させた。

街をつなぎ、人をつなぎ、想いをつなぐ、もうひとつの国民の足として。

数々の高性能を搭載し、生まれ変わった魅力あふれるキャンター。

今回は、その開発の秘密に迫ってみよう!



CANTER

さらに進化したキャンターならではの安心の走り。
これはまさに、日本のトラックの「黒帯」だ。

初代キャンターの精神を受け継ぐ、 「ふそウブランクベルト」が復活。

昨年10月、誕生から5年の時を経て、の世代目の新型キャンターがデビューした。10年振り、満を持しての「デザイン」新ただ。

まず目を引くのが、フロントマスクの「デザイン」。初代キャンターの時代から受け継いだ「ブランクベルト」だ。これは、信頼性・勇気・粘り強さといった三菱ふそうの「ブランクイメージ」を象徴するものであり、製品に対する自信の現れでもある。強さだけではない、精神的にも成熟したまさに柔道の「黒帯」のイメージだ。

ブランクベルトは現在、ひと田だわかる三菱ふそうのアイデンティティーとなつている。

先進の安全・快適技術が、 トラックの新しい時代を切り拓く。



新型キャンターの「安全性能」については、特筆すべきものがいる。まずは、トラック左側の死角をサポートする「アクティブ・サイドガード・アシスト」を国内の小型トラックとして初めて搭載^{*1}したことだ。

小型ではあっても、死角の多いトラックである以上、追い越し時や左折時の巻き込み事故のリスクは存在する。さらに交差点内での人や自転車との接触による死亡事故発生率も高いものがある。ドライバーにとって、その不安を軽減してくれる先進機能は、何よりも心強い味方になる。

ターゲットが培ってきた長い歴史を重んじる。その姿勢は、「デザイン」の開発現場にも見て取れる。3DモデリングやVR（仮想現実）など最新のデジタル技術の活用は当然だが、一方でアナログな「デザイン」プロセスも重要視する。最終的には原寸大のクレイモデルを、熟練のモデルーが手作業で形状を削り出しているのだ。

国際色豊かな「デザインスタッフ」の中で、30年以上の経験を持つ日本人モデルーの職人技が、精悍な中にもどことなく温もりのある、キャンターの柔らかな表情を生み出している。柔よく剛を制す。「黒帯」に通じる精神が、この「デザイン」の現場にも生きかされている。

1963年の誕生から58年、信頼の歴史を受け継ぐキャンター。



むかし、FUSOべッジランプを全車標準装備。ドア側のサイドマーカーランプやオプションとなるフォグランプにもLEDを採用し、外部からの視認性にも配慮した。しかも車線逸脱警報装置、衝突被害軽減ブレーキの搭載など、小型トラックとは思えないほどの安全技術を採用している。

もちろん足回りも、10年前のモデルチェンジから評価が高く、乗り心地と荷物を積んだ状態での安定性には絶対的な定評がある。

これらの高性能は、トラックに「乗る楽しさ」という新しい価値を提案するものだ。新型キャンターは、ドライバー不足に悩む運送業界に一石を投じる存在になる可能性を秘めている。

仕事を支え、物流を支える、日本の新しい足として、絆として。

口口ナ禍の影響で宅配業務が多くなっている今、小型トラックの重要性がますます高まっている。日本ならではの

国民の足として普及した軽自動車や「コンパクトカー」と同様に、小型トラックももうひとつ新たな日本の足になりつつある。それにともなって、ドライバーの負担が増大しているのも事実だ。

そんなドライバーの負担を少しでも軽減したい。この思いから、新型キャンターでは様々な新機能が搭載された。その代表が「FUSOイージーアクセスキー」の全車標準装備だ。ポケットにキーを入れたまま施錠・解錠、エンジンの始動ができるこのシステムは、頻繁に乗り降りを繰り返す街中の配達業務でぜひとも欲しかった機能だろう。

そして、エンジン部など部品交換の際に高額な特別部品の保証を5年・10万kmから8年・18万kmに延長。これは三菱ふそうの自信と信頼の証に他ならない。いちばん大切なのは、お客様の業務を止めないこと。新型キャンターが、仕事を支え、日本の物流を支える新たな存在になる。

キャンターについての動画は[こちら](#)



アクティブ・サイドガード・アシスト*

* 国内初※1 小型トラック搭載

レーダーが前方の走行車両、静止車両、動いている歩行者を検知。衝突の危険を察知すると、車間距離や走行状況に応じて警報を発し、ブレーキを自動的に作動させる。



衝突被害軽減ブレーキ

► トラックも本格的なEVの時代へ。地球の未来に向かって走り続けるために。

新型キャンターの登場に先駆けて昨年の8月、「eCanter」も新型が発表された。2017年に登場した世界初の量産電気小型トラック※2のさらなる進化だ。

CO₂や汚染物質を排出しないゼロ・エミッション輸送や騒音問題の解決はもちろん、新型では衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱警報装置を標準装備するなど、安全性能が大幅に強化されている。

人つなぎ、社会をつなぎ、未来をつないでいくために。地球環境に配慮した物流ニーズがますます高まる中、三菱ふそうはディーゼルトラックから電気トラックまで幅広い選択肢を提供している。



about eCANTER

01

※1 2020年9月時点。三菱ふそうトラック・バス調べ。 ※2 2017年9月時点。三菱ふそうトラック・バス調べ。

CASE、eモビリティ…今さら聞けない、でも知りたい

自動車・輸送業界の新潮流

〈しんちょうりゅう〉

自動車・輸送業界に新たな潮流が生まれつつあります。それが「CASE」に見られる新技術・新システムの導入、カーボンニュートラル社会を意識したeモビリティの実践です。今、一体何が起きているのか、その新潮流を解説します――。

「CASE」が変える 自動車・輸送業界の未来

自動車・輸送業界は100年に一度の大変革期の渦中にあります。ダイムラーAG CEOであったディータ・ツェッペル氏が提唱した今後の自動車業界の戦略「CASE」とは「C（Connected）／自動運転（Autonomous）／シーアリンク（Shared）／電動化（Electric）」これらからの自動車に欠かせないキーワードの頭文字を合わせたもの。技術革新だけでなく、利用環境や利用の仕組みまで変え、自動車・輸送業界だけでなく、社会のあり方にも影響を及ぼすと言られています。

まずは自動車は「ネクテッド、常時インターネット」に接続する時代となり、ナビをはじめ、IT技術を活用した運行管理システムは、今や商用車に必須の装備です。

走行データの集積や解析により、自動運転技術への応用も期待されます。自動車の「T化」による情報収集・活用で、利便性も向上し、さまざまなサービスや付加価値が生まれる可能性を秘めています。次に事故防止や運転負担の軽減、交通渋滞の緩和、輸送業界のドライバー不足を補うものとして期待されているのが、自動運転です。

自動運転はレベル1～5に分かれており、実はすでにレベル4の高度運転自動化技術が、確立化されつつあります。

これによりドライバーの負担軽減を図ることができるのとで、輸送業界の課題解決のため、自動運転トータックの開発・普及が待たれます。

また都市化・デジタル化、「若者のクルマ離れ」もあって、自動車は「シェア」する時代に。自動車は所有せずに、共有して利用するものとなっています。

このため、自動車メーカーでは自動車を販売するだけではなく、どのような新たなサービスを構築し、提供できるかが求められています。

欧米や中国では電気自動車の開発・普及も加速しています。

■ 自動運転技術の5段階のレベル

レベル	名称	内容・定義概要	運転主体
1	運転支援	システムが前後・左右いずれかの車両運動制御のサブタスクを限定領域において実行	運転者
2	部分運転自動化	システムが前後・左右両方の車両運動制御のサブタスクを限定領域において実行	運転者
3	条件付き運転自動化	システムが全ての動的運転タスクを限定領域において実行。作動継続が困難な場合は、システムの介入要求等に適切に応答	システム
4	高度運転自動化	システムが全ての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への応答を限定領域において実行	システム
5	完全運転自動化	システムが全ての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への応答を無制限に(すなわち、限定領域内ではない)実行	システム

す。その背景には地球温暖化対策、脱炭素化社会への移行があります。その潮流は電気自動車だけでなく、トラックにも押し寄せ、商用車のEV化を促していくのです。

電気トラックの導入が輸送業界で進めば、CO₂排出防止対策だけではなく、騒音の低減など、都市環境に貢献できるメリットがあります。走行音が静かなので夜間や早朝でも配達が可能となり、近隣住民に配慮ができます。

CASEの実践により、自動車・輸送業界が様変わりを見せるのは間違いない」とひづみ。

eモビリティ・電気トラックの普及に必要な充電設備と助成金の整備

日本でも菅首相が脱炭素社会への取り組みを提唱し、2050年までにカーボンニュートラル(CO₂排出ゼロ)を実現すると明言しました。」これにより日本国内において見せるのは間違いない」とひづみ。

でも、電気自動車、電気トラックなど、eモビリティの普及が後押しされることになります。

すでに三菱ふそうではダイムラーグループであるメリットを生かし、2017年、世界で初※の量産型小型電気トラック「eCanter」を発売。この分野のトップハンナーとして快走しています。

しかし、電気トラックの普及には課題もあります。その一つが急速充電設備などのインフラ整備です。現在普及しているEVの充電設備は乗用車仕様が多く、トラック用のスペースは十分とは言えません。しかし、カーボンニュートラルが国策となり、政府は最新の「成長戦略実行計画案」で、電気自動車の急速充電設備を3万基増設すると明言しています。

また中小の輸送業者にも、電気トラックの導入が求められます。そこでは環境省が国土交通省・経済産業省と連携し、「環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業」といった、補助金や一部経費を助成する制度が設立されます。これらの制度をうまく組み合わせて使い、eモビリティを賢く採り入れたいのです。

(ジャーナリスト 荒田雅之)



※ 2017年9月時点。三菱ふそうトラック・バス調べ。

▶ 電気で運ぶ未来を実現する「eCanter」の先進性。

世界では、低公害車のみ立ち入りが許可されるエリアがすでに多くの都市で設定されています。

三菱ふそうが製造する電気トラック「eCanter」は、日本だけでなく世界のスタンダードとして、ますますその存在が重要なになっていきます。

eCanterは、「電気で運ぶ未来」を実現していくのです。

詳しくはコチラ



about eCANTER

02

「冷たい麺」8選

でも冷たい麺なら、さっぱりつるりと食べられる。
名物麺をご紹介。各地を訪れたら、ぜひ味わってみてほしい。

| 冷やしラーメン

〈山形〉



■ 氷を浮かべた冷たいスープが涼を呼ぶ

山形市の夏は暑い。あちこちの店頭に「冷やしラーメン」のぼりが立ち並ぶ。ルーツは市内の「栄屋本店」。素材から出る脂が固まらないよう丁寧に処理した醤油風味の冷製スープは清涼感にあふれ、浸した麺や具材がよく進む。爽やかな後味がクセになると評判だ。

| すったて

〈埼玉〉

■ すりたて野菜入り冷や汁でうどんを食す

川島町の農家に昔から受け継がれてきた夏のスタミナ郷土食。すったてとはすりたてのこと。胡麻や味噌、きゅうり、しそ、みょうがなどをすり鉢ですり、冷水を加えた冷や汁にうどんをつけて食べる。胡麻と薫味の香りが食欲をそそる残り汁には、ごはんを入れるのもよい。



©吉庵

| へぎそば

〈新潟〉

■ 強いコシの秘密はつなぎに使う布海苔

海藻の布海苔をつなぎに使ったそばを、「へぎ」と呼ぶ木の器に一口ずつ手振りにして盛り付ける。布海苔による強いコシとつるつとした喉越しが特徴的。織り目を模した美しい並べ方は発祥の地・魚沼地方の織物文化が生んだもの。ダシの香り高いつけでいただき。



| きしころ

〈愛知〉



■ 夏バテにひんやりつるつるのきしめん

名古屋名物として知られるきしめんは、うどんより薄く平らな麺。つるつるした喉越しとしなやかなコシが特徴だ。これに冷えたつゆをかけ薫味を添えるのがきしころで、ころきしめんとも呼ぶ。蒸し暑い夏の名古屋で手軽に食べるのにぴったり。夏バテ予防におすすめ。





絶品
地元メシ

暑さも吹き飛ぶ！ ご当地名物

蒸し暑い日本の夏。食欲を失いがちな季節
そこで全国各地のソウルフードともいえる

| 越前おろしそば

〈福井〉

| おざら

〈山梨〉

■ 煮込まない冷やしほうとうは夏の風物詩

たくさんの具とともに味噌仕立てのダシ汁でぐつぐつ煮込むほうとうとは違い、ゆでて冷水でしめた麺を温かい醤油ベースのつゆに入れて食べる。麺は極太のほうとうよりやや細めなのが一般的。とはいって十分幅広なので食べ応えがある。山梨ならではの夏の風物詩だ。



■ 大根おろしと削り節をたっぷりのせて

全国有数のそば産地・福井県を代表するご当地グルメ。歯応えのある風味豊かな越前そばを、冷たいつゆと辛みの効いた大根おろしで味わうシンプルな一品。削り節や刻みネギを添えることが多い。大根おろしを先につゆに混ぜるなど、食べ方にバリエーションがある。

| オリーブそうめん

〈香川〉

■ オリーブの実を練り込んだ翡翠色の麺

瀬戸内海に浮かぶ小豆島は昔からそうめん作りが盛ん。日本で初めてオリーブ栽培に成功した島としても有名だ。地元産のオリーブの実をペースト状にして練り込み、表面にオリーブオイルを塗った手延べそうめんは、ほかにない美しい翡翠色とモチモチ食感が魅力。



©二十四の瞳映画村(チリリン屋)

| 別府冷麺

〈大分〉



■ 和風スープにキャベツキムチの独特冷麺

戦後、旧満州からの引き揚げ者が朝鮮民族の冷麺を別府に広めたのが始まり。スープは昆布などの和風ダシをベースにし、チャーシューは牛肉で、キムチはキャベツで作るなど独自のアレンジを加えて発展した。上品なスープと弾力ある麺のハーモニーを楽しんでほしい。

世にも不思議な怪異談

ドライバーを続いていると、走りなれた道なのに、不思議な経験をすることがある。
地球の磁場が狂っているのか、靈がもたらす怪奇現象なのか、単なる体調不良なのか。
あるトラックドライバーのタイムトラベル！

ある夏の昼下がり、首都圏の郊外にある物流センターに初めての配達を終えたときのことです。その日は朝からどんどんよりとした空模様だったので、早く会社に戻り、報告書をまとめて上がろうと帰路を急いでいたのですが、周辺の風景に見覚えがあつて……。

実は故郷の街並み、坂道が多いところや、坂の上に学校があるところなどが似ていたんです。そこでトラックが停められる大きな駐車場があるコンビニで、お気に入りの缶コーヒーを買ってひと息つくことに。

そして運転席に戻りドアを閉めかけると、突然、曇天の空が一瞬光って、ドーン！すぐ近くの公園の大きな木に雷が……。衝撃で私の意識は飛んでいました。

「ユウちゃんじゃない？」

聞き覚えのある声で目を開けると、そこには可愛がっていた甥っ子のマコトが、凜々しい詰め襟姿で立っていました。

「トラックに乗ってるんだ。じゃあ、ちょっとドライブしよ」。言われるがまま、トラックを動かすと、走つ

いるのは故郷の道。「あれ、懐かしいなあ」「何言つていらへドライブがてら他愛のない話をし、暗くなると、「もう帰るよ。家まで送つて。道わかるよね」「もちろん」マコトを玄関まで送つて、「じゃ、またな」。再び運転席に戻ると、また空が光り、雷が……。

「ユウヤ、起きろ！ また雷が落ちるかもしねいから、早く日報仕上げて帰れよ」目を開けると、そこには先輩が。自分は会社に戻つてトラックに乗つたまま、うたた寝をしていました。

自宅に戻つてから姉に電話しました。「今日は会えなくてごめん」「えっ、今どこ？帰つてたの」「マコトから聞いてない？」「何言つてるので、マコトはどうにいよいよ」「それはいいから、アンタ、そろそろ帰つてきて実家に顔出しなよ、何年経つたと思ってるの」姉はそんなことを電話越しにクドクドあれこれと……。

そうだった、マコトはもう何年も前に、小学5年の夏休みの林間学校で遭遇した落雷事故で亡くなつていたんだ。雷がマコトに会わせてくれたのかな。そういえば、マコトは詰め襟を着られなかつたんだな。マコトの詰め襟姿よかつたな。

あれそうすると、今日、自分はいつたいどの道を走つていたんだろう。でもまあ、いいか。この夏はひさしごりに故郷に帰つてみるか。

トラックドライバーのユウヤはいつたいどこを走つて、

いたのでしょうか？

車両の稼働状況を「見える化」する
トラックコネクト
TRUCKCONNECT

車両の稼働状況を「見える化」する

「位置・軌跡状況把握」「車両管理」「安全運転情報」「遠隔診断」「燃費情報」「ジオフェンシング機能」の6つの機能がある「Truckonnect®」を搭載していれば、どこを走っていたのかがわかります。

トラックコネクトについて
詳しくは[こちら](#)



1.車両の位置・軌跡状況把握



稼働車両のリアルタイムな現在位置を地図に表示。それまでの稼働経路や駐停車した時間など、車両の軌跡を把握できます。

2.車両管理



車両の稼働状況を把握できる「車両管理」機能が進化。過去と今月の走行時間やアイドリング時間などを比較できます。

3.安全運転情報



急発進、急制動などを感知して、危険運転の傾向がある場合に画面上に表示します。

4.遠隔診断



重要な故障を知らせるDTC(診断トラブルコード)を検知して通知します。

5.燃費情報



燃費の推移を日にちごとや月単位で把握。また、燃費の自動計算により燃費のデータをそのつど集計。データのダウンロードも可能です。

6.ジオフェンシング機能



事前に登録した特定のエリアに出入りすると、リアルタイムに通知。車両の運用プロセスの改善や業務の効率化に貢献します。

※上記は、キャスター搭載時の機能概要となります。※Truckonnect®は三菱ふそうトラック・バス株式会社の登録商標です。



※国産トラックにおいて。2021年5月時点。三菱ふそうトラック・バス調べ。

私たちがこの考え方を、「コストの面にも反映。走行距離(マイル)と料金(¥)を連動させた、業界初のFUSOマイレージリース」をご提供いたします。

繁忙期、閑散期、季節要因など、お客様のビジネスに寄り添った合理的で画期的な「走行距離運動型リース」を生み出しました。

トラックを使うビジネスにとって、走行距離と売上は比例の関係。走行距離が多い月は売上がアップし、少ない月は売上がダウンします。距離とお金。それは切っても切り離せない、密接な関係なのです。

■リース料お支払いイメージ

月	一般的なリース料(毎月固定)	実走行距離に応じて変わる「変動リース料」
1月	高	低
2月	低	高
3月	低	高
4月	高	低
5月	低	高
6月	高	低
7月	低	高
8月	高	低
9月	低	高
10月	高	低
11月	低	高
12月	高	低

- POINT 01** 商用車国内初^{*}となる車線内停止方式のドライバー異常時対応システム「エマージェンシーストップ・アシスト」を新たに追加
- POINT 02** 商用車国内初^{*}のさらに進化した運転自動化レベル2の高度運転支援機能「アクティブ・ドライブ・アシスト1.0」を新規搭載
- POINT 03** 追加した、先進運転支援システム「アクティブ・サイドガード・アシスト1.0」を新規搭載

大型トラック「スーパー グレート」
安全性を強化した新型モデル発売。



※マイレージリースの詳細に関しては、最寄りの三菱ふそう販売店にお問い合わせください。※1 2021年6月現在。三菱ふそうトラック・バス調べ。



三菱ふそうの「純正部品」「ふそうバリューパーツ」の中から、定期交換部品19品目を「最大50%OFF」でご提供!この機会をぜひご利用ください。

6-7月限定
定期交換部品 最大
50% OFF

クルマの性能と安全を保つために、
定期的な部品交換を!

※一部の販売店では最大50%オフのお取り扱いしていない場合もございます。
また、一部対象外の商品もございますので、詳細は最寄りの販売店にお問い合わせください。

e キャンターは、 いいキャンター。

地球に、
街に、
わたしたちの暮らしに、
ビジネスに、
ドライバーにも、いい。



世界に先駆けた、量産電気小型トラック。

e CANTER



トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ

三菱ふそう / FUSO Japan
<https://www.facebook.com/FusoOfficial/>



三菱ふそう
公式チャンネル
<http://www.youtube.com/user/Fusoofficial>



三菱ふそうトラック・バス株式会社
www.mitsubishi-fuso.com